

心臓マッサージ 強く絶え間なく

海星学院高
運動同好会 心肺蘇生法学ぶ

室 蘭

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、236人)の運動同好会(廣瀬拓弥部長)の生徒15人と教員2人が24日、入江町の室蘭地方合同庁舎を訪れ、室蘭海上保安部の職員から海の安全や心肺蘇生法などを学んだ。

生徒たちは海上での自己救命策として①ライフジャケットを必ず着用②連絡手段の確保③もしものときは118番の三つの基本を確認。携帯電話については「大切な連絡手段の一つ。防水パックに入れておくといいです」と助言を受けた。

心肺蘇生法では訓練用の人形を使って、倒れた人の意識確認、周囲の人への救急車や自動体外式除細動器(AED)の手配指示、呼吸確認、心臓マッサージといった一連の流れを教わり、一人ずつ実践した。

心臓マッサージでは「肘を真っ直ぐ伸ばして体重を載せ、救急車が到着するまで強く、早く、絶え間なく押ししてほしい」と助言され、生徒たちは額に汗を浮かべながら取り組んでいた。廣瀬部長(3年)は「いざというときの心構えができてま



心肺蘇生法を学び心臓マッサージの練習をする生徒

した」と話していた。今回の学習を生かし、29日には、海でカヌーから転

落して溺れた際の救助の実技講習を行う。

(成田真梨子)